

宮崎市定 みやざきしじょう 東洋史學者、文學博士。明治二十四年八月（二十日）長野縣生れ、平成七年五月（二十四日）没（二九〇—一九五）。大正十四年京都帝國大學文學部東洋史科卒。第一高等學校、第二高等學校各教授を経て、昭和十九年京都帝國大學教授。この間フランス入留學。三十二年、九品官入法の研究「科學前史」（昭和二十一年刊）（以下）日本學士院賞受賞。平成元年文化功勞者。

著書に、『東洋に於ける素朴主義の民族と文明主義の社會』（昭和十五年四月十日富山房「支那歴史地理叢書」）、『日出づる國と日暮るる處』（昭和十八年八月二十日京都・星野書店）、『むすむす薩摩野記』（昭和十九年九月十五日生活社）、『雍正帝—中國の獨裁君主』（昭和二十五年二月十日岩波書店「岩波新書」）、『東洋的近代』（昭和二十五年十一月十五日大阪・教育タイムズ社）、『論語の新研究』（昭和四十九年六月二十日岩波書店）、隨筆『木米と永翁』（昭和五十年六月二十日朝日新聞社）、『中國史』全二冊（上・昭和五十一年八月二十日、下・五十二年六月二十七日岩波書店「岩波全書」）、『東風曲雅』（昭和五十一年五月十八日岩波書店）、『史記と語る』（昭和五十四年五月二十一日岩波書店「岩波新書」）、『独歩吟』（昭和五十八年四月十七日岩波書店）等。他に、昭和四十一年から昭和四十二年までの記載の『宮崎市定博士著作目録』（無刊記）がある。

